オンラインセミナー「ステイ・ニュータウンで再発見!」第3回 「アートがなくては千里じゃない!」

2021 年 3 月 21 日(日)14:00-15:30 お話:藤脇慎吾さん(フジワキデザイン) 聞き手:奥居武(千里ニュータウン研究者)

奥居

オンラインセミナー「ステイ・ニュータウンで再発見!」本日は第3回「アートがなくては千里じゃない!」と題しまして、千里育ちのアートディレクター藤脇慎吾さんと、千里のアート探検をしてまいります。藤脇さん、よろしくお願いします。

藤脇

こんにちは。ドキドキワクワクしています。この機会をくださった千里ニュータウンのみなさんに感謝を述べさせていただきます。千里にご縁のない方も楽しんでいただけるようにやるので、よろしくお願いします。

私は1963年豊中市生まれ。4歳の頃に桃山台に引っ越してきました。以来、桃山台から1ミリも出たことがない。引っ越してきた頃は道路が舗装されておらず、御堂筋もない。春日池は砂浜だった。手を水につけたら魚が寄ってきてすくえるくらい。御堂筋のあたりはたぶん桃畑が広がっていた。それで桃山台なんだと勝手に思っていました。

グラフィックデザイナーとアートディレクターを生業にしています。両親ともグラフィックデザイナーで、父親の代表作が『どん兵衛』(パッケージ・デザイン)。小学校の時は「毎日どん兵衛を食べているんか」といじられた記憶があります。母親もグラフィックデザイナーでかなり変わった人物で近所でも有名でした。

巨大な積み木を積み上げたような形状の敬愛幼稚園を出て、桃山台小学校へ。中学は隣町の竹見台中学校に行きました。千里高校にはいろんな事情(笑)で行けず高校は茨木市の春日丘に行きました。

その時にはじめて自分のまち千里を意識しました。春日丘からすると千里ニュータウンはかなり異形な地のようで、友達からものすごくいじられた。千里っ子と呼ばれたり。それがわが町、千里ニュータウンを意識するきっかけになりました。

そこでデザインという職業を意識しはじめ、京都市立芸術大学へ。そこからグラフィックデザイナーへの道にたどり着いていきました。

アートディレクターは何をやっているのか。以下、私の仕事をご紹介します。兵庫県立美術館のシンボルマークはコンペティションで、安藤忠雄さんに選んでいただいた。どうして兵庫県立美術館の仕事を取ってきたのかとよく聞かれますが、千里にゆかりのある万博公園にあった国立国際美術館の館長、木村重信さんも千里の住民で、先生から「参加してみないか」



と声をかけていただいて参加することになったんです。

次は、ユニバーサルスタジオのオープニングビジュアルです。今でこそ USJ はすごく人気ですが、開発当時は、九条あたりに遊園地ができると聞いて現地に行くと、ここに遊園地が?という不思議な場所でした。オープニングのビジュアルを担当しました。

次は、六本木ヒルズ最上階の展望台「TOKYO CITY VIEW」のオープニングビジュアルです。パンフレットの仕事も含め、東京の仕事も実は大阪で作っていました。

次は、千日前に本店がある丸福珈琲店のリニューアルのビジュアルです。昭和 9 年創業の歴史ある喫茶店ですが、3 代目店主から依頼を受けて、デザインを担当しました。

このほか、京阪沿線のくずはモールのリニューアル…旧くずはモールを現在のものに変える計画とか、神戸国際会館のマーク、最近では京都鉄道博物館のシンボルマークなども担当しています。

奥居

シンボルマークが多いですね。

藤脇

そうですね。グラフィックデザイナーといっても建物・商業施設のオープニングビジュアルの開発が多いです。

こちらは、兵庫県立美術館のゴッホ展の広報物 (パンフ・ポスター) です。目標人数を与えられ、それを周知するためのものを作っていく。阪急梅田駅のコンコースに展開しました。

千里のみなさんにはなじみが深い、万博公園の国立民族学博物館「先住民の宝展」のポスタービジュアルとチラシも作りました。この展示はコロナ禍で延期され、3回同じポスターを日付を変えて作るという貴重な体験をしました。

奥居

ありがとうございます。アートの世界でご活躍の藤脇さんは生粋の千里 住人ということですね。

その藤脇さんに、千里ニュータウンに散りばめられたパブリックアートの数々を巡っていただきました。南北4キロ、東西3キロ、人口約10万人の千里ニュータウンには、たくさんアート作品が配置されています。リストアップしてみると50ヵ所近くにのぼることがわかりました。全部ではありませんが、藤脇さんに奥様と愛犬と一緒に歩いて回っていただきました。

北公園~中央公園

藤脇

日頃から犬の散歩でいろんな公園を巡る時に、ちらほら見受けられる彫刻作品がある。ど ういう来歴でここに来てるのか。誰がプロデュースしたのか。奥居さんに資料を見せていた だいて、今回本格的に回って撮影してきました。22 ヵ所。全部回るともったいないと思ったので、このほかに豊中と吹田の北部4ヵ所が残っています。

最初は、千里北公園の『風の道』、新宮晋さんの大きな作品です。北公園の僕の思い出は、ボーイスカウトでしごかれ、市民プールでもしごかれた。しごかれた記憶と結びついている公園ですが、かなりアップダウンがあり、好きな公園です。『風の道』は子供の頃から最近まで気象観測装置だと考えて疑わなかったものが、丘の上に立っています。大きさがわかるように、撮影には、わざと自分を入れて撮っています。



奥居

高さ約 20m ということです。てっぺんの風車が風でくるくると回る。上半分の角度が風で変わるようになっていますね。

藤脇

黄色い風車がくるくる回っていて、気象観測器っぽい。この近く…北公園の最上部は桜並木があって、もうすぐ桜の中に作品が浮かび上がると思います。公園の入口…下のほうから撮影すると、遠くに小さく写っています。動きがあるので下からでもわかります。ただ設置した時は、こんなに木が大きくなかったと思います。もっと全景が下からでも見えたのではないかな。今日リストアップした中でも非常に好きな作品です。

次は、やはり北公園の上のほうにある『天の子』。山脇正邦さんの作品です。新宮さんの作品は大変大きくて目立ちますが、これくらいの大きさの作品も公園の中に点在しています。1 枚目はバックショット。後ろから茂みに向かって立っている。丘の頂上にあって、昔は周りに木がなくて、丘の上から千里を見下ろしていた。今はお尻だけ見えて、すぐ前に植栽が迫っている。その中に入ってどうにか前から撮影しました。

奥居

本当は茂みのほうが正面なのに、手前に植栽をやりすぎて、それが育ってしまって後ろからしか見られない状態になっているんですね。

藤脇

次は、北公園の丘から降りてきた所。蓮間池の南。千里北公園の入口から進んでいった左手に、座る女性の像があります。『翠(みどり)』というタイトルです。恥ずかしそうに向こう側を見ています。このタイトルは、女性が翠さんなのか、千里北公園の自然をイメージしているのか?ここも植栽がかなり大きくなっていて、角度を工夫しないと撮れません。作者は安

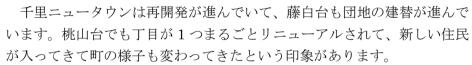
田周三郎さん。安田であれっと思ったら、安田財閥関連の方で、周三郎さんの妹さんの娘さんがオノョーコさん。…ということを聞くと、見に行こかと思っていただけるのでは。

次は、北千里駅前にある『集(つどい)』という作品。 植木茂さんの制作です。私は桃山台住まいなので北千 里の駅前はあまり行くことがないんですが、こんな素 晴らしいアートがあります。暗くなってきて煌々と光 っています。スポンサーが松下電器産業(現パナソニ ック)。メンテナンスの関係かな?中に照明が入って います。イオンの看板のピンク色にも負けることなく 存在感を表している。大きな作品で迫力があります。 日が暮れてから見ると綺麗ですね。作者の植木茂さん



はデザインの仕事を多くされていて、サントリーのリザーブのボトルデザインや照明家具のデザインもされている。たぶん松下電器の照明にも関わっているんじゃないかな。

次は、藤白台の藤白公園。『預言者』という、今村輝久さんの作品です。 この公園には初めて行きました。格好いいですね。この作品も茂みが迫っ てきています。後ろで子供たちがお母さんと遊んでいました。この藤白公 園は西向きに眺望が開けていて、夕日がかげっていく時間帯、『預言者』の 開いている目の中に太陽がちょうど入りました。彫刻が生きているようで す。



次は、藤白台のロータリーにやってきました。ロータリーの真ん中に、『翼のある車輪』という加藤昭男さんの作品があります。今までは公園を見てきましたが、車がくるっと回るロータリーの真ん中にもアートが設置されています。子供たちが彫刻の周りで遊んでいて写真を撮るでと言ったら写りたいと全員、彫刻に上って入ってくれました。ここも茂みに入らないと近付けない。ちょっと遠目には、ここに彫刻があるとわかりにくいです。作者の加藤さんの解説によると、車輪は文化の歴史を表していると。その車輪に翼を付けたという不思議なものです。回りのロータリーでは車がぐるぐる回っています。





奥居

ロータリーは、ニュータウンのルーツであるイギリスの田園都市にならったものです。いかにもニュータウンらしい街路ですが、千里ニュータウンでは、完全に円形のものは津雲台に2ヵ所、藤白台に1ヵ所ありますね。

藤脇

さてこちらは古江公園。初めて行きました。藤白台から坂を下りて、阪 急千里線のガードをくぐった所にある大きな公園です。公園内にかなりア ップダウンがあり、その中にある番匠宇司さんの『宇』という作品を見つ けるのに時間がかかりました。



奥居

この公園は阪急電車の車内からひな壇状の斜面が見えるので北千里から乗る人にはおな じみのはずなんですが、このアートは僕も知らなかったですね。

藤脇

作者は「番匠宇司(ばんしょうたかし)」さんというお名前です。作品名は『宇』。大きな 屋根の下という意味らしい。訓読みでは「のき」と読みます。

奥居

作品名は「宇」で「う」と読むのか、お名前の「たかし」なのか?

藤脇

作品解説には「機械に支配されない。自由に一人歩きしたい。そんな心の虫を単純な形で表してみた」とある。全然、単純じゃないところがすごい。気に入った作品です。

さて、千里中央公園にやってきました。ここは古江台の続きのように思われがちですが、新千里東町で、豊中市になります。展望台と体育館、長~い滑り台が有名ですね。その展望台の近くに忽然と現れる謎の平板が。京都芸大…私の大先輩になりますが…辻晋堂さんの『オバQ』という作品です。なぜ『オバQ』なのか。この作品は白色セメントで作られていて、もともとは白かったんですね。今は白くなくなってしまって、「オバケのQ太郎」ファンからするとこれはドロンパちゃうかと。ところが今の子は、オバQを知らないんですよね。



奥居

ドラえもんの前に藤子不二雄先生が作られた大人気のキャラクター。オバケなのに足が あるという。

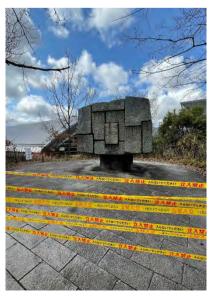
藤脇

千里中央公園の『オバQ』も、よく見ると足が作られています。辻晋堂さんの作品は、南公園にも大作があるので、それはのちほど。

その次は公園の南側に来て千里体育館の裏手の丘の上にある『あほんだら獅子』。流政之さんの作品です。ところが行って みると、今は侵入禁止のテープが張られていました。

奥居

最近火遊びした人がいたらしくて、立入禁止になっているようです。



藤脇

作者の流政之さんは、侍アーティスト。俳優のような顔立ちでカリスマ性がある方。なんで「あほんだら」なのか見てもわからないが巨大な作品。手前からだと後ろ姿しか見えませんが、これは獅子頭なんですね。

奥居

「千里の魔除け」という意味を込めて、鬼瓦みたいなものなんだろうと思います。流さんの故郷である瀬戸内から大きな石を運び上げて、130 トンもあるらしいです。

藤脇

千里を一望できる高台にあり、千里を守っているように見える獅子頭。 火遊びしたらあかんですよね。罰あたりますよ。

回っているうちに日が暮れてきてしまいましたが、次は中央公園の駐車 場のすぐ横にある『布を持つ』。彫像で有名な山本雅彦さんの作品です。



南半分へ~作者の横顔

藤脇

南地区へ行きまして、津雲台はロータリーが 2 ヵ所ありますが、北の五 丁目のほうのロータリーにあるのが『おしゃべり』。三坂耿一郎さんの作品 です。ロータリーの真ん中にあるので、必死に見ないと植栽が大きくなっ て見えません。

もう 1 つは南側、近隣センターのピーコックがあるほうのロータリー。 『希望』という高須賀桂さんの作品です。かなり大きな作品ですが、ここ も周りに木が生い茂っている。誰かが猫を飼っている形跡もある。周りか らは見えにくい状態になっています。

さて南公園にやってきました。出ました!わが京都芸大の辻晋堂さんによる『日と風と雨に』。今回調べてみると、作者の辻さんは木喰上人(もくじきしょうにん)に共感を覚えていた。江戸後期に千体以上の仏像を残した彫刻家で「天下和順」「日月清明」という言葉を残した方。その木喰上人にならって、この世が平和で、明るく照っているようにという希望を込めて、この作品を考えたそうです。千里の平和を祈願していますと。





奥居

真鍮でかなり大きいですね。阪急電車の千里トンネル南入口の近くにあって、気をつけていると電車からも見えますね。

藤脇

かっこいい作品なんですが、木が茂りすぎ。真鍮からサビが浮いて。落書きとサビと鳥の

フンが…。公園の遊歩道からは木の陰になってほぼ見えません。でも行った時には、家族連れの女の子が撮影していまして。 辻晋堂さんは NHK「日曜美術館」でも取り上げられましたし、 昨年(2020 年)は京都で生誕 110 年の展覧会も行われました ので、それをご覧になったのかもしれません。このあたりはこれから桜がきれいな場所です。

さてそこからすぐなんですが線路の反対側、済生会千里病院の玄関にいるのが『PONTA』。千里中央公園にある『あほんだら獅子』を作られた流政之さんによる、こちらはタヌキ像。なんでタヌキなんやろ?左に説明板があって「千と里を合わせると狸の漢字になる」とある。ならへんやろ(笑)。済生会千里病院と統合された千里救急救命センターが発注したらしい。台座

の中にメスとハサミと注射器が納められていた。患者さんが自分の体の悪い所と同じ PONTA の場所を触ると良くなるという趣向のようです。

次は、千里南公園の南の入口にあるモニュメントで、南公園ファンの方はご存じでしょう。ところがこれは作者不詳。資料にも載ってない。銘板もはまっていた跡がありますが、外されています。みんなが見て知っているのに、謎の存在です。

南公園はアート作品がずいぶんたくさんあって、 次は新谷秀雄さんの『コステューム』。 資料や銘板 ではお名前が「秀雄」になっていますが「英夫」だと 思います。新谷家は神戸ゆかりの彫刻一家として有名 で、神戸には新谷家の作品がかなり設置されていま す。「コステューム」はカラーセメントを使っている そうで、若干色が付いています。カフェ「バードツリ ー」の北側にあるが、このカフェにも作品の説明を置 いてほしいですね。











次も南公園で、綿引孝司さんの『間』という作品なんですが、これも植え込みが大きくなりすぎて下半分が見えません。しかし近づいてみると、どんぐりが供えてある。みなさんに愛されている形跡があるのがいいなと思いました。

次もその近くの丘の上です。松村外次郎さんの『灯籠』という作品ですが、 副題が「桃太郎」。天使かなと思って近づくと、マスクをさせられている。 だいぶ老朽化していますが、みなさんに愛されているなぁと。下には犬がい て、手に何かを持っている。たぶん欠損したところにどなたかが新しく作っ て置いているんちゃうかな。それくらい愛されている。作者の松村外次郎さ んは、富山県砺波市に「松村外次郎記念 庄川美術館」という美術館があり ます。

南公園が続きます。次の作品は昆野恒さんの『碑 No.3』ですが、残念な



がら台座しか残っていません。『碑 No.4』が宇部市にあるようです。

次は、高野公園に行きました。ここには『渦柱』という菅原石廬さんの作品があります。目がいっぱいあるように見えますが、目じゃなくて渦が構造物の中に点在していると解説されています。高野台の団地は建替が進んでいます。高野台の思い出は南千里市民プールですが、今は保育園になっています。

最後に、佐竹公園。ここはボーイスカウトの活動でよく行きました。竹 内正治さんの『母と子』という作品が菩提池の南側にあります。池の周りを めぐっていると、カワセミがいてびっくりしました。

佐竹台と高野台の間、亥子谷からニュータウンに入ってくる「千里ぎんなん通り」の北側には 五十嵐芳三さんの『番人』という作品が千里緑地の中にありましたが、今は失われています。高野台の端っこですね。





奥居

2018年の台風で倒れてしまったと聞いています。ニュータウンの入口に「番人」があったわけなんですね。

藤脇

もともとの作品は、抽象化された目を表したものでした。

以上が千里ニュータウンのアートを回ってみたレポートです。まだ他に行っていない作品があります。

奥居

ありがとうございました。何名かの作者さんについても、調べてきてくださったんですね。

藤脇

まず、飯田善国さん。千里中央にあった『ステンレスの林』。 心に残る作品でしたが再開発の際に撤去されてしまいました。 飯田さんの作品は万博会場の中にも、これに似たものがありま した。

次は、北公園の『風の道』を作られた新宮晋さん。兵庫県立 美術館で開かれた「宇宙船」という展覧会の図録です。抽象の 作家はみなさんドローイングが素晴らしい。三田で今もお元気 に活動を続けておられます。

次は、さきほどの『オバQ』の作者である辻晋堂さん。南公園の『日と風と雨に』も作られた。1985年の作品集があったんですが、『時計』という作品は、陶彫(とうちょう)といって彫刻を窯に入れて焼きしめる作風。



次は、流政之さん。『あほんだら獅子』と『PONTA』の作者ですね。ニューヨークのワー

ルドトレードセンターの前に作品がありました。神戸のメリケンパークには『神戸海援隊』という作品があります。梅田の阪急三番街の地下1階には『UMECHAN』という作品がありますので、お探しください。

私はグラフィックデザイナーですので美術展の図録を集めていまして、その中からご紹介しました。

千里はなぜ「アートの町」になったのか?

奥居

ありがとうございました。

では私のほうから、なぜ千里ニュータウンにはこれほど多くアート作品が置かれるようになったのかをご説明します。作品一覧を作ると、大きく4つのグループに分けられます。

●A. 1967年に「第1回千里野外彫刻展」というイベントが千里南公園で開催され、大阪府がいろんな作品をアーティストに作ってもらった。いったん千里南公園に全部設置して、買い手がついたものを千里じゅうの公園や駅前などに再配置しました。25 作品のうち 19 作品が現存していて、抽象作品も具象作品もあります。

この野外彫刻展には、協力で小野田セメント(現・太平洋セメント)がついていました。 白色セメントをアートで使ってほしいと、セメントを提供して作ってもらった。それが千里 のあちこちに置かれています。

- ●B. 1970年に千里ニュータウンが一通り出来た。その完成記念モニュメントとして大阪府が5つの大きな作品を置きました。『風の道』『あほんだら獅子』『集い』『日と風と雨に』『ステンレスの林』。『ステンレスの林』だけが再開発で撤去されましたが、残りの4つは今もあります。
- ●C. 1995 年、新千里西町の千里中央を囲む道路に沿って、景観モデル事業として豊中市が8つの作品群を設置し、「千里アートロード」と名づけました。これらは、すべて具象でブロンズ。すべて現存しています。
- ●D. このほか、個別で設置されたものが、いくつかあります。済生会千里病院の『PONTA』は、このグループに入ります。

このように、千里ニュータウンはたくさんアートがある町になりました。中には再開発で撤去されたものもありますが、多くは今も残っています。設置者が大阪府だったり豊中市だったり、民間スポンサーを募って関西電力などに寄付してもらったりしているんですが、これを仕掛けた方が、実はいらっしゃいました。

大阪府の外郭団体だった千里センターにお勤めだった奈須豊さん。この方は、千里センターの職員で、かつ画家だった。実は私、昔、奈須さんに絵を習っていました。奈須さんの仕掛けがあったうえで、こんなにたくさんアート作品が千里にあることになったんじゃないかなと考えています。

彫刻のほかにも、千里ニュータウンを特徴づけている屋外の「目印」をご紹介します。まず、千里ニュータウンの入口には、「ここから千里ニュータウンですよ」ということを示す

大きな標柱が最低 6 ヵ所ありました。今は 3 ヵ所が現存しています。桃山台・高野台・新千里北町。新千里北町はほぼ茂みに隠れています。このほかに、千里南公園には文学碑が 16 ヵ所設置されていて、すべて現存しています。そんなものもあります。

山を切り崩して造った千里ニュータウンがただの 造成地にならないように、いろいろ特色を付けようと して、いろんなものを作って置いていったことが伺え ます。

最近では「千里キャンドルロード」も有名ですね。 「まちびらき 50 年」だった 2012 年から毎年、千里 の大きな公園で行われている市民参加型のアートイ ベントです。

千里はアートに縁が深い町ですが、よく考えると、 その親分は『太陽の塔』かもしれません。千里のいろ んなところからこれが見える。いつも毎日、なんとな





く目に入ってくる。これが千里住民のアートマインドをかきたてているのではと思います。 巨匠の作品があり、市民参加型もあり、いろんな仕掛けがあって今も楽しめるのではない でしょうか。

それではここから、参加の皆さんからの質問を受け付けます。

(参加者)

3つ伺います。野外芸術がこれほどあるのは、千里ニュータウンだけの特徴でしょうか? ほかのニュータウンではどうなのか…。セメントとブロンズなどの金属、どちらが雨風に耐 えられるでしょうか?また設置当初、植え込みや樹木が成長することはわかっていたと思 いますが、配慮されていなかったのでしょうか?

奥居

まず、千里以外のニュータウンでも、屋外パブリックアート…モダンな現代アート風のものが駅前などに置かれていることは、あります。新しい町にモダンなものを置きたい、単調じゃなく変化がある、みんなが思いを入れられる町にしていきたいと、人の目が付くところにアートが置かれるんだと思います。それは海外のニュータウンでも見られます。

ただ、こんなに数が多いのは千里だけじゃないかなと思います。仕掛人がいて積極的にしたことが千里ならではの特徴になっているのではないでしょうか。野外彫刻展でいっぺんに 25 個も置いているわけですから。お金を企業から集めたり、仕掛けをうまく作ってされたんじゃないかなと。

藤脇

材質の点では、セメントは少し弱いですね。ブロンズはヨーロッパでもそのままの形で残っています。ある論文を読むと、日本では「白色セメント造形美術会」というものが昭和初

期にあったと。小野田セメントがバックアップして美術品だけじゃなく遊具(すべり台)などを白色セメントで作って舞台を広めていったと書かれている研究論文がありました。それが 1970 年代に下火になったのは劣化が原因ではないかと。『オバQ』も完成時は真っ白で、たしかにオバQだった。それが今はコンクリート剥き出しでざらざらの状態になっています。

奥居

白色セメントを売り込んだセールスポイントは、加工がしやすい。それは裏返すと風化に弱いということです。50年もたてばどんな材質でも風化しますが、ニュータウンも50年たったんだなぁということです。

緑の成長については、たしかに植栽で見えなくなっている作品がたくさんあります。千里 ニュータウンは、緑を剥ぎ取って造成地にしたので、一刻も早く緑を戻したい、うるおいの ある町にしたいと、成長が速い木を植えたりアートを置いたりした。ですから成長を予想は していたでしょうけど、予想以上に伸びちゃったという部分もあるかと思います。

(参加者)

今後は、作品が見えやすいように伐採する必要もあるんじゃないかと思いました。

奥居

緑を減らすのは難しい決断ですね。そうしようとすると必ず反対の声も出るので結局、切らないほうが無難だとなりやすい。でもせっかくこれだけの町の宝物があるのだから、見えたほうがいいですよね。

さて、ニュータウンを中心にご紹介いただきましたが、隣の万博公園も太陽の塔だけじゃなくアートな空間ですね。イサムノグチの噴水があったり。

藤脇

そうですね。岡本太郎の作品は「カーニバル・プラザ」というお店で使われていた看板が 江坂公園にも置かれています。1970~1980年代に岡本太郎の影響で北摂はアートにあふれ た町になったのかなという印象があります。

国立国際美術館が万博にあった頃、自転車で足しげく通ったものですが、2004年に中之島に行ってしまった。ミロの陶板とか千里に置いておいてほしかった。万博から美術館がなくなったのは非常にさびしいですね。

千里住民からするとセルシーの再建も早くしてほしい。テレビ番組の収録があったりしてセルシーがひとつの文化拠点だった。あそこに『ステンレスの林』を復活してはどうかな あと思ったりしています。新しいアートのモニュメントもあるといいですね。

奥居

いいですね!仕掛人の奈須さんはもともと山田の地主の家の方で、自分の土地を売って、そこが造成され千里ニュータウンになった。思い入れのある土地がただの造成地、単調な建

物が並んでいるだけの場所にしたくないという気持ちがあったんじゃないでしょうか。ご 自分で絵も描かれていたので、千里センターで仕事をしながらカルチャー面の肉付けを一 生懸命されて、それが今も残っている。

今はなかなか余裕のない時代で、アートより他にやることがあるだろうとなっちゃいますが、町には特徴があったり、『オバQ』とか『風の道』といったものがあることで、思い出ができる。再開発の中でもそういうことがあるといいなと思います。

その中で、新しい人にもチャンスが回ればいいと思いますし、古い作品も大切にしてほしいですね。

(参加者)

ふだん彫刻には興味なかったんですが、千里南公園に『日と風と雨に』が出来た時は衝撃的で写真を撮りに行った思い出があります。それが今は無残な状態で…ニュータウン完成記念モニュメントなのに。修復にはすごくお金がかかるのでしょうか?市民のクラウドファンディングとか、方法はないんでしょうか?

藤脇

お金はかかりそうですが、やらないとあかんと思います。どう考えても、やらなあかん。 大学に彫刻の先生や友人がいるので、現状の写真を見せて「どないすんねん」と発表したい と思います。

(参加者)

津雲台のロータリーの思い出なんですが、あそこはいつもタクシーが停まっていて運転 手さんが用を足していたり…。彫刻も被害にあったのではないでしょうか。

藤脇

猫だけじゃない人も住んでいる形跡が…。津雲台ロータリーはひどい状況だと思いますね。津雲台の団地は再開発されていて、マンションのガラス越しに見えるオブジェもあったりするんですが、ぜひロータリーの整備もお願いします。

奥居

ロータリーは車が回る所ですが、本当はあんなに木を植えたら見通しが悪くなるんです。 ロータリーは、イギリスのレッチワース田園都市が発祥の地で、いかにもニュータウンらし い存在なんですが、ヨーロッパのニュータウンに行くと、緑地は緑地のまま。何も植えない で広い芝生のままでおいてある所がずいぶんあります。ところが日本人は、緑地があると日 本庭園風に作り込みたくなっちゃう。作り込むことが良い空間だと。見通しが悪くなるよう な所にも、木を植えてしまう。最初は木が小さいからいいんですが、50年たつと…。木は いったん根が張っちゃうと撤去しにくい。そうやって茂みになっていく。

(参加者)

新千里北町のセンターのロータリーにも『腕をくむ』という彫刻があります。北町には動

物の形をした車止めも多数あるのでぜひ見に来てください。

藤脇

山本雅彦さんの作品ですね。今回、青山台と新千里北町の 4 ヵ所は残してレポートしました。次の機会に発表できたらと。「きょうの新千里北町」のように、投稿していただく場があるといいですね。

奥居

新千里北町は、円形じゃないんですが、台形の変形ロータリーになっていますね。

千里ニュータウンにはたくさんアートがありますが、新千里南町、竹見台、桃山台にはなぜか作品がありません。なぜなんだ?1967年「野外彫刻展」が終わったあとに作品を千里の各所に再配置したんですが、その時点で町ができていた所にしか置けなかったんですね。その時、新千里西町、新千里南町、竹見台、桃山台はまだできていなかった。新千里西町だけは1995年にアートロードの整備事業があって今はたくさんありますが、新千里南町、竹見台、桃山台は抜けたままになっています。そこは、今の若い世代の方にチャンスを作れるといいなと思います。

(参加者)

仕掛人の奈須さんはなつかしい。京都芸大の受験の時のデッサンでお世話になりました。

奥居

奈須豊さんは、東町や西町にお住まいだったこともあります。奈須先生にはニュータウンの見方をいろいろ教えていただきました。絵画教室で「団地の窓は一個一個全部違うんやからちゃんと描きや」と。役人離れした仕事をいっぱいされた方ですね。

千里ニュータウンはリニューアルの時期にきていますが、再開発で味気ない町になって しまわないように。古いものも整備できるものは整備していければいいですね。セルシーを やり替えたときに、『ステンレスの林』を復活できるとすごく楽しいですね。これからもア ートのある千里ということで、藤脇さんにも頑張っていただいて、私も何か仕掛けができた らいいなと思います。

3回シリーズでお届けしてきましたオンラインセミナーは今回で終了です。1回目は「鳥」、2回目は「地名」、3回目は「アート」。いろんな視点で千里ニュータウンを歩き回っていただき、地元の魅力をみなさんにも再発見していただけたらと思います。

千里ニュータウン情報館は、南千里駅の改札を出てすぐの場所にあります。千里ニュータウンに関わる貴重な資料を多数集めています。開館時間中は係員がおりますので、質問などございましたら窓口でご質問ください。また、千里ニュータウンに関する貴重な資料などお持ちでしたらぜひともお持ちいただけたら大変ありがたいです。休館は月曜日です。なつかしいバスオールや、町のジオラマ、図書や調査レポートなどの紙資料のほかに千里ニュータウン開発当初の映像も見ることができます。千里のいろんなことを発掘していただけたら

と思います。

本日は藤脇さんありがとうございました。

藤脇

ありがとうございました。

主催:吹田市立千里ニュータウン情報館

運営企画:一般財団法人 千里パブリックデザイン 後援:吹田市・豊中市千里ニュータウン連絡会議

文字起こし: AKIRA text create 山本晶

■参考文献/情報源:

『千里野外彫刻展』『千里野外彫刻展作品目録』『千里モニュメント作品目録』 吹田市立千里ニュータウン情報館